

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年7月2日
【会社名】	ラクオリア創薬株式会社
【英訳名】	RaQualia Pharma Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 谷 直樹
【本店の所在の場所】	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号
【電話番号】	052-446-6100(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 河田 喜一郎
【最寄りの連絡場所】	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号
【電話番号】	052-446-6100(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 河田 喜一郎
【届出の対象とした募集有価証券の種類】	新株予約権証券 (行使価額修正条項付新株予約権付社債券等)
【届出の対象とした募集金額】	その他の者に対する割当 14,586,000円 新株予約権の払込金額の総額に新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額 1,386,996,000円 (注) 行使価額が修正又は調整された場合には、新株予約権の払込金額の総額に新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額は増加又は減少します。また、新株予約権の権利行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した新株予約権を消却した場合には、新株予約権の払込金額の総額に新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額は減少します。
【安定操作に関する事項】	該当事項なし
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

**第一部【証券情報】****第1【募集要項】****1【新規発行新株予約権証券】****(1)【募集の条件】**

発行数	2,210個
発行価額の総額	14,586,000円
発行価格	6,600円(本新株予約権の目的である株式1株当たり6.6円)
申込手数料	該当事項なし
申込単位	1個
申込期間	平成26年7月18日
申込証拠金	0円
申込取扱場所	ラクオリア創薬株式会社 財務・経営企画部門
払込期日	平成26年7月22日
割当日	平成26年7月22日
払込取扱場所	株式会社三井住友銀行 名古屋支店

(注) 1. ラクオリア創薬株式会社第10回新株予約権(第三者割当て)(以下、「本新株予約権」という。)は、平成26年7月2日付の当社取締役会決議にて発行を決議しております。

2. 申込方法は、申込期間内に申込取扱場所に申込みをすることとします。

3. 本新株予約権の募集は第三者割当ての方法によります。

4. 振替機関の名称及び住所

株式会社証券保管振替機構

東京都中央区日本橋茅場町二丁目1番1号

## (2)【新株予約権の内容等】

<p>当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の特質</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本新株予約権の目的となる株式の総数は2,210,000株、割当株式数（別記「新株予約権の目的となる株式の数」欄第1項に定義する。）は1,000株で確定しており、株価の上昇又は下落により行使価額（別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第1項第(2)号に定義する。）が修正されても変化しない（但し、別記「新株予約権の目的となる株式の数」欄に記載のとおり、調整されることがある。）。なお、株価の上昇又は下落により行使価額が修正された場合、本新株予約権による資金調達額は増加又は減少する。</li> <li>2 行使価額の修正基準：本新株予約権の行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日における当社普通株式の東京証券取引所における普通取引の終値（以下、「終値」という。）（同日に終値がない場合には、その直前の終値）の90%に相当する金額（1円未満の端数を切り上げる。）が、当該効力発生日の直前に有効な行使価額を1円以上上回る場合又は下回る場合には、当該効力発生日以降、当該金額に修正される。</li> <li>3 行使価額の修正頻度：行使の際に本欄第2項に記載の条件に該当する都度、修正される。</li> <li>4 行使価額の下限：当初435円（但し、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第3項の規定を準用して調整されることがある。）</li> <li>5 割当株式数の上限：本新株予約権の目的となる株式の総数は2,210,000株（発行済株式総数に対する割合は16.30%、割当株式数は1,000株で確定している。）</li> <li>6 本新株予約権がすべて行使された場合の資金調達額の下限（本欄第4項に記載の行使価額の下限にて本新株予約権がすべて行使された場合の資金調達額）：975,936,000円（但し、本新株予約権は行使されない可能性がある。）</li> <li>7 本新株予約権には、当社の決定により本新株予約権の全部又は一部の取得を可能とする条項が設けられている（詳細は、別記「自己新株予約権の取得の事由及び取得の条件」欄を参照）。</li> </ol>
<p>新株予約権の目的となる株式の種類</p>	<p>当社普通株式 完全議決権株式であり、権利内容に何らの限定のない当社の標準となる株式である。なお、当社は1単元を100株とする単元株制度を採用している。</p>
<p>新株予約権の目的となる株式の数</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本新株予約権の目的である株式の総数は、2,210,000株とする（本新株予約権1個当たりの目的たる株式の数（以下、「割当株式数」という。）は1,000株とする。）。但し、本欄第2項乃至第4項により割当株式数が調整される場合には、本新株予約権の目的である株式の総数は調整後割当株式数に応じて調整されるものとする。</li> <li>2 当社が別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第3項の規定に従って行使価額の調整を行う場合には、割当株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。なお、かかる算式における調整前行使価額及び調整後行使価額は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第3項に定める調整前行使価額及び調整後行使価額とする。 <math display="block">\text{調整後割当株式数} = \frac{\text{調整前割当株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}</math></li> <li>3 調整後割当株式数の適用日は、当該調整事由に係る別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第3項第(2)号、第(5)号及び第(6)号による行使価額の調整に関し、各号に定める調整後行使価額を適用する日と同日とする。</li> <li>4 割当株式数の調整を行うときは、当社は、調整後の割当株式数の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前割当株式数、調整後割当株式数及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第3項第(2)号に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。</li> </ol>
<p>新株予約権の行使時の払込金額</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額 (1) 各本新株予約権の行使に際して出資される財産は金銭とし、その価額は、行使価額に割当株式数を乗じた額とする。 (2) 本新株予約権の行使に際して出資される当社普通株式1株当たりの金銭の額（以下、「行使価額」という。）は、当初621円とする。</li> </ol>

## 2 行使価額の修正

別記「(2) 新株予約権の内容等(注)」欄第6項第(3)号に定める本新株予約権の各行使請求の効力発生日(以下、「修正日」という。)の直前取引日における当社普通株式の終値(同日に終値がない場合には、その直前の終値)の90%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額(以下、「修正日価額」という。)が、当該修正日の直前に有効な行使価額を1円以上上回る場合又は下回る場合には、行使価額は、当該修正日以降、当該修正日価額に修正される。但し、修正日にかかる修正後の行使価額が435円(以下、「下限行使価額」といい、本欄第3項の規定を準用して調整される。)を下回ることとなる場合には行使価額は下限行使価額とする。

本新株予約権のいずれかの行使にあたって上記修正が行われる場合には、当社は、かかる行使の際に、当該本新株予約権者に対し、修正後の行使価額を通知する。

## 3 行使価額の調整

- (1) 当社は、当社が本新株予約権の発行後、下記第(2)号に掲げる各事由により当社の普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合には、次に定める算式(以下、「行使価額調整式」という。)をもって行使価額を調整する。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left( \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行} \cdot \text{1株当たりの} \cdot \text{処分株式数} \times \text{払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行} \cdot \text{処分株式数}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新発行} \cdot \text{処分株式数}}$$

- (2) 行使価額調整式により行使価額の調整を行う場合及び調整後の行使価額の適用時期については、次に定めるところによる。

下記第(4)号に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行し、又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合(無償割当てによる場合を含む。)(但し、新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使、取得請求権付株式又は取得条項付株式の取得、その他当社普通株式の交付を請求できる権利の行使によって当社普通株式を交付する場合、及び会社分割、株式交換又は合併により当社普通株式を交付する場合を除く。)

調整後の行使価額は、払込期日(募集に際して払込期間を定めた場合はその最終日とし、無償割当ての場合はその効力発生日とする。)以降、又はかかる発行若しくは処分につき株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。

株式の分割により普通株式を発行する場合

調整後の行使価額は、株式の分割のための基準日の翌日以降これを適用する。

下記第(4)号に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を交付する定めのある取得請求権付株式又は下記第(4)号に定める時価を下回る払込金額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)を発行又は付与する場合(但し、当社又はその関係会社(財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則第8条第8項に定める関係会社をいう。)の取締役その他の役員又は使用人に新株予約権を割り当てる場合を除く。)

調整後の行使価額は、取得請求権付株式の全部に係る取得請求権又は新株予約権の全部が当初の条件で行使されたものとみなして行使価額調整式を適用して算出するものとし、払込期日(新株予約権の場合は割当日)以降又は(無償割当ての場合は)効力発生日以降これを適用する。但し、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合には、その日の翌日以降これを適用する。

当社の発行した取得条項付株式又は取得条項付新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の取得と引換えに下記第(4)号に定める時価を下回る価額をもって当社普通株式を交付する場合

調整後の行使価額は、取得日の翌日以降これを適用する。

	<p>本号 乃至 の場合において、基準日が設定され、かつ、効力の発生が当該基準日以降の株主総会、取締役会その他当社の機関の承認を条件としているときには、本号 乃至 にかかわらず、調整後の行使価額は、当該承認があった日の翌日以降これを適用する。この場合において、当該基準日の翌日から当該承認があった日まで本新株予約権の行使請求をした新株予約権者に対しては、次の算出方法により、当社普通株式を交付する。</p> $\text{株式数} = \frac{(\text{調整前行使価額} - \text{調整後行使価額}) \times \text{調整前行使価額により当該期間内に交付された株式数}}{\text{調整後行使価額}}$ <p>この場合、1株未満の端数を生じたときはこれを切り捨てるものとする。</p> <p>(3) 行使価額調整式により算出された調整後の行使価額と調整前の行使価額との差額が1円未満にとどまる場合は、行使価額の調整は行わない。但し、その後行使価額の調整を必要とする事由が発生し、行使価額を調整する場合には、行使価額調整式中の調整前行使価額に代えて調整前行使価額からこの差額を差し引いた額を使用する。</p> <p>(4) 行使価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。</p> <p>行使価額調整式で使用する時価は、調整後の行使価額が初めて適用される日に先立つ45取引日目に始まる30取引日における当社普通株式の終値の平均値(終値のない日数を除く。)とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。</p> <p>行使価額調整式で使用する既発行株式数は、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日、また、かかる基準日がない場合は、調整後の行使価額を初めて適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式の総数から、当該日において当社の保有する当社普通株式を控除した数とする。また、上記第(2)号 の場合には、行使価額調整式で使用する新発行・処分株式数は、基準日において当社が有する当社普通株式に割当てられる当社の普通株式数を含まないものとする。</p> <p>(5) 上記第(2)号の行使価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、本新株予約権者と協議のうえ、その承認を得て、必要な行使価額の調整を行う。</p> <p>株式の併合、資本の減少、会社分割、株式交換又は合併のために行使価額の調整を必要とするとき。</p> <p>その他当社の普通株式数の変更又は変更の可能性が生じる事由等の発生により行使価額の調整を必要とするとき。</p> <p>行使価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の行使価額の算出にあたり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。</p> <p>(6) 上記第(2)号の規定にかかわらず、上記第(2)号に基づく調整後の行使価額を初めて適用する日が本欄第2項に基づく行使価額の修正日と一致する場合には、当社は、必要な行使価額の調整を行う。</p> <p>(7) 行使価額の調整を行うときは、当社は、調整後の行使価額の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前の行使価額、調整後の行使価額及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、上記第(2)号 に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。</p>
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額の総額	<p>1,386,996,000円</p> <p>別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第2項又は第3項により、行使価額が修正又は調整された場合には、上記株式の払込金額の総額は増加又は減少する。また、本新株予約権の権利行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、上記株式の払込金額の総額は減少する。</p>

新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	<p>1 本新株予約権の行使により株式を交付する場合の株式1株の払込金額 本新株予約権の行使により交付する当社普通株式1株の払込金額は、行使請求に係る各本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額に、行使請求に係る各本新株予約権の払込金額の総額を加えた額を、別記「新株予約権の目的となる株式の数」欄記載の株式の数で除した額とする。</p> <p>2 本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金及び資本準備金 本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。</p>
新株予約権の行使期間	平成26年7月23日から平成27年7月22日までとする。
新株予約権の行使請求の受付場所、取次場所及び払込取扱場所	<p>1 本新株予約権の行使請求受付場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部</p> <p>2 本新株予約権の行使請求取次場所 該当事項なし</p> <p>3 本新株予約権の行使請求の払込取扱場所 株式会社三井住友銀行 名古屋支店</p>
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできない。
自己新株予約権の取得の事由及び取得の条件	<p>1 当社は、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合は、本新株予約権の払込期日の翌日以降、会社法第273条及び第274条の規定に従って通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たり6,600円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる。一部取得をする場合には、抽選その他の合理的な方法により行うものとする。</p> <p>2 当社は、当社が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となることを当社の株主総会で承認決議した場合は、会社法第273条の規定に従って通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たり6,600円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部を取得する。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	該当事項なし
代用払込みに関する事項	該当事項なし
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	該当事項なし

（注）1．本新株予約権の発行により資金調達をしようとする理由

当社は、下記「（資金調達の目的）」に記載の資金調達を行うために、様々な資金調達方法を検討いたしました。しかし、「2．本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容（2）資金調達方法の選択理由（他の資金調達方法との比較）」に記載のとおり、公募増資やMSCB等の各種資金調達方法には各々メリット及びデメリットがある中で、メリルリンチ日本証券株式会社（以下、「メリルリンチ日本証券」という。）より提案を受けた「2．本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容（1）資金調達方法の概要」に記載のスキーム（以下、「本スキーム」という。）は、「（2）資金調達方法の選択理由（本スキームの特徴）」に記載のメリットがあることから、下記「（2）資金調達方法の選択理由（本スキームのデメリット）」に記載のデメリットに鑑みても、本スキームによる資金調達方法が当社のファイナンスニーズに最も合致していると判断いたしました。そのため、本新株予約権（行使価額修正条項付新株予約権）の発行により資金調達をしようとするものであります。

（資金調達の目的）

これまでの経緯

平成26年2月28日に発表いたしました中期経営計画-「プロジェクトReborn 90」に記載のとおり、臨床試験段階においては、多額の研究開発費が必要となるため、当社における研究開発に係る費用及びリスク負担を軽減する事を目的として、当社保有の開発化合物について「選択と集中」を行っております。また、それと並行する形で、産学連携によるアカデミアとのシナジーを最大限に発揮できる体制を充実させ、効率的な研究開発体制の構築と継続的な事業費用の圧縮を進めております。

開発プログラムの「選択と集中」の中で、消化器疾患領域を重点領域として掲げ、当該プログラムを「Coreプログラム」と位置づけ、自社による開発も含め、化合物の価値を上げるため、内部リソースを集中し、魅力あるプログラムとして、早期の収益獲得を目指しております。

消化器疾患領域の主な開発プログラムとして、自社で臨床第Ⅰ相単回投与試験を米国で実施したアシッドポンプ拮抗薬(化合物コード: RQ-00000004、以下「RQ-4」)と、同じく自社で臨床第Ⅰ相試験を英国で実施した5-HT<sub>4</sub>受容体部分作動薬(化合物コード: RQ-00000010、以下「RQ-10」)があります。現在、両プログラムともアジア地域(日本を除く)の権利を韓国のCJ第一製糖株式会社に導出しております。RQ-4は既に韓国における臨床第Ⅰ相試験を終了し、臨床第Ⅰ相試験を開始しております。

アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)は、既に開発を開始している米国及び韓国での臨床試験の成績を踏まえ、胃食道逆流症治療薬としての第一選択薬であるプロトンポンプ阻害薬(PPI)の売り上げが年々増加している日本国内で、胃食道逆流症を適応症として臨床第Ⅰ相試験を開始いたしました。

これらに加え、5-HT<sub>2B</sub>拮抗薬(RQ-00310941)は、本事業年度においては、薬効薬理試験を完了し、前臨床試験が順調に進展しており、初期臨床試験実施の検討を開始しております。

また、モチリン受容体作動薬(RQ-00201894)は、前事業年度に着手した4週間反復経口投与毒性試験(GLP基準)が、現在、評価結果の精査段階にあり、その他、薬物動態試験及び薬効薬理試験についても、各種評価が進行中で、前臨床開発が順調に進展しており、初期臨床試験実施の検討を開始しております。

当社のビジネスモデルはResearch Driveによる継続的な開発候補品の創出(年間1個を目標)と当社が所有する開発化合物の導出の実現による契約一時金収入、導出後に契約相手先の研究開発の進捗に応じて受け取る確実なマイルストーン収入、さらには、医薬品の上市後に販売額の一定料率を受け取るロイヤルティ収入を上げることです。既に3社との共同研究と5社7件の導出を実現しておりますが、医薬品開発にはそれ相応の時間がかかることもあり、継続的に現在保有しているプログラムの権利を積極的にその価値を上げて導出する必要があります。

先にあげた当社の重要な開発ポートフォリオであるRQ-4及びRQ-10についても日本並びに欧米地域での権利を早期に導出するにあたり、自社による臨床第Ⅰ相試験の開始によるプログラムの価値を向上し、早期に導出を進めていくことが重要であると考えております。

当社は、上述のような背景から、適宜、適時に経営上のニーズに対応できるよう、資金調達を図るべく、平成25年7月4日に第8回新株予約権(第三者割当て)(以下、「第8回新株予約権」という。)を発行いたしました。第8回新株予約権の当初調達予定額は、3,286,500,000円(差引手取概算額)を想定しており、当社は、平成25年7月、第8回新株予約権の発行数2,500個のうち290個の行使により271,775,000円(行使額面総額)を調達し、継続的な開発候補品の創出を実現するための研究開発投資に充当しました。しかしながら、その後、当社の株価が下限行使価額を下回る水準で推移しているため、未行使の2,210個については、事実上行使ができない状況が継続しています。

かかる状況の下、第8回新株予約権の発行時に予定していた資金用途の一部(研究機器設備投資資金及び運転資金)については、平成26年2月に当社提携先であるAratana Therapeutics社の当社保有株式を売却して得た約22億円を充当いたしました。しかしながら、第8回新株予約権の当初調達予定額になお不足があることに加え、新たに日本においてアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の臨床第Ⅰ相試験を実施することとなったため、資金需要が発生した場合に機動的に資金調達を行うことができるよう、今回、第8回新株予約権の未行使残高のすべてを本新株予約権の割当日に取得及び消却するとともに、第8回新株予約権の下限行使価額の見直しの上で、第8回新株予約権と同様の内容の本新株予約権を上記未行使残高と同じ数だけ発行することといたしました。

なお、未行使の第8回新株予約権が平成26年7月2日から本新株予約権の割当日までの期間に行使された場合、当社は、本新株予約権の割当日に、上記期間に行使された第8回新株予約権と同じ数の本新株予約権について、停止指定(下記「2. 本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容(1)資金調達方法の概要」に定義します。)の通知を行った上で、本新株予約権の発行要項に従って取得し、取得後速やかに消却するための決定を法令上可能な範囲で行う予定です。

#### 資金調達の目的

今回の資金調達の目的は、上記の「プロジェクトReborn 90」に基づき、英国で実施しておりました5-HT<sub>4</sub>受容体部分作動薬(RQ-10)の臨床第Ⅰ相試験の成功に伴う、臨床第Ⅰ相試験の計画及び実施、及び、アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の日本における臨床第Ⅰ相試験の計画及び実施、5-HT<sub>2B</sub>拮抗薬(RQ-00310941)及びモチリン受容体作動薬(RQ-00201894)の初期臨床試験の計画と実施、当社の強みであるResearch Driveによる継続的な開発候補品の創出を実現するための研究開発費に充当することにあります。

## 2. 本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容

## (1) 資金調達方法の概要

今回の資金調達は、当社がメリルリンチ日本証券に対し、行使可能期間を1年間とする行使価額修正条項付き新株予約権（行使価額修正条項の内容は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第2項に記載されています。）を第三者割当ての方法によって割当て、メリルリンチ日本証券による新株予約権の行使に伴って当社の資本が増加する仕組みとなっています。

当社は、第8回新株予約権を発行したときと同様に、メリルリンチ日本証券との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に、下記の内容を含むコミットメント条項付き第三者割当て契約を締結いたします。この契約は、あらかじめ一定数の行使価額修正条項付き新株予約権（行使価額修正条項の内容は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄第2項に記載されています。）をメリルリンチ日本証券に付与したうえで、今後資金需要が発生した際に、当社が、一定の条件に従って本新株予約権を行使すべき旨及び行使すべき本新株予約権の数を指定（以下、「行使指定」という。）できる仕組みとなっており、メリルリンチ日本証券は、かかる指定を受けた場合、一定の条件及び制限のもとで、指定された数の本新株予約権を20取引日の期間中に行使することをコミットします。当社は、この仕組みを活用することにより、資金需要に応じた機動的な資金調達を行うことができます。

但し、当社が一度に指定できる本新株予約権の数には一定の限度があり、本新株予約権の行使により交付されることとなる当社普通株式の数が、指定の前日までの1ヶ月間又は3ヶ月間における当社普通株式の1日当たり平均出来高数のいずれか少ない方の3日分を超えないように指定する必要があります。複数回の指定を行う場合には20取引日以上の間隔を空けなければならない。また、当社普通株式の終値が下限行使価額の120%に相当する金額を下回る場合、未公表のインサイダー情報等がある場合、当社の財政状態又は業績に重大な悪影響をもたらす事態が発生した場合など一定の場合には当社はかかる指定を行うことはできません。なお、当社は、上記の指定を行った場合、その都度プレスリリースを行います。

当社は、その裁量により、本新株予約権の全部又は一部につき、行使することができない期間を指定（以下、「停止指定」という。）することができます。停止指定の期間は当社の裁量により決定することができます。また、当社は、一旦行った停止指定をいつでも取り消すことができます。但し、上記の本新株予約権を行使すべき旨の指定を受けてメリルリンチ日本証券がコミットしている本新株予約権の行使を妨げることとなるような停止指定を行うことはできません。

当社は、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合は、本新株予約権の払込期日の翌日以降、会社法第273条及び第274条の規定に従って通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たり6,600円の価額で、本新株予約権者（当社を除く。）の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができます。

メリルリンチ日本証券は、平成26年7月23日から平成27年5月31日の間のいずれかの取引日における当社普通株式の終値が下限行使価額を下回った場合に当該取引日の翌取引日に当社に対して通知を行うことにより、又は平成27年6月1日以降平成27年6月29日までに当社に対して通知することにより、本新株予約権の取得を請求することができ、かかる請求がなされた場合、当社は、本新株予約権の発行要項に従い、新株予約権の払込金額と同額の金銭を支払うことにより、原則として15取引日以内に本新株予約権を取得します。

なお、本新株予約権が譲渡された場合でも、上記のコミットメント条項付き第三者割当て契約に基づいて、当社が割当予定先に対して本新株予約権の行使指定、停止指定及びその取消しを行う権利、並びに割当予定先が当社に対して本新株予約権の取得を請求する権利は、譲受人に引き継がれます。

## (2) 資金調達方法の選択理由

上記の資金調達方法は、当社が新株予約権の行使の数量及び時期を相当程度コントロールすることができるという特徴をもっています。すなわち、当社に資金需要が発生し、本新株予約権の行使を希望する場合には、一定の期間内に行使すべき本新株予約権の数を指定することができ、一方で、株価動向等を勘案して当社が本新株予約権の行使を希望しない場合には、本新株予約権を行使することができない期間を指定することもできる手法（エクイティ・コミットメントライン）です。そのため、資金需要に応じた柔軟な資金調達が可能になるとともに、株価に対する一時的な影響が小さいものと考えられます。

当社は、今回の資金調達に際し、多様な資金調達手段を検討し、以下の点や本新株予約権の下限行使価額と当社の株価の推移等を総合的に勘案した結果、本スキームによる資金調達が現時点における最良の選択であると判断しました。

なお、第8回新株予約権の発行時は、当社が当時保有していた米国のAratana Therapeutics社のIPOを巡る思惑などもあり、当社株価が歴史的な高値水準にありました。結果的に、第8回新株予約権の行使可能期間が約1ヶ月経過した後、現在に至るまで、当社株価は概ね第8回新株予約権の下限行使価額を下回り、第8回新株予約権の行使による調達額は271百万円に留まっております。今般、第8回新株予約権の全部を取得及び消却し、新たに第10回新株予約権を発行することとした背景は、年初来低迷していた株式市場に底打ちの兆しが見られることから、資金調達環境が改善しており、前回と同様のスキームによっても、今般の調達が進捗する見込みが相応にあると判断したためです。



### （本スキームの特徴）

当社の資金需要や株価動向を総合的に判断したうえで、柔軟な資金調達が可能であること。

本新株予約権の目的である当社普通株式数は2,210,000株で一定であるため、株価動向によらず、最大増加株式数は限定されていること（平成26年7月1日現在の総議決権数に対する最大希薄化率は、16.30%）。

当社普通株式の終値が下限行使価額の120%に相当する金額を下回る場合、割当予定先に対して本新株予約権の行使を指定することはできず、また、当社普通株式の終値が下限行使価額を下回る場合、割当予定先が本新株予約権の取得を請求する権利を有することになるというデメリットはあるが、本新株予約権の行使価額には上限が設定されていないため、株価上昇時には調達金額が増大するというメリットを当社が享受できること。

本新株予約権の払込金額と同額の金銭を支払うことにより、本新株予約権の全部又は一部を取得することができ、事業戦略の進捗次第で将来的に資金調達ニーズが後退した場合、又はより有利な他の資金調達手法が確保された場合においても、資本政策の柔軟性を確保することができること。メリルリンチ日本証券は、本新株予約権の行使により取得する当社普通株式を長期間保有する意思を有しておらず、かかる当社普通株式に関連して株券貸借に関する契約を締結する予定はないこと。

メリルリンチ日本証券に本スキームと同様のスキームに関して十分な実績があると認められること。

### （本スキームのデメリット）

市場環境に応じて、行使完了までには一定の期間が必要となること。

株価が下落した場合、調達額が予定額を下回る可能性があること。

株価が下限行使価額を下回って推移した場合、調達ができない可能性があること。

### （他の資金調達方法との比較）

公募増資による新株の発行は、資金調達が一時に可能となりますが、同時に1株当たり利益の希薄化をも一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること。

株価に連動して転換価額が修正される転換社債型新株予約権付社債（いわゆる「MSCB」）の発行条件及び行使条件等は多様化していますが、一般的には、転換により交付される株数が転換価額に応じて決定されるという構造上、転換の完了まで転換により交付される株式総数が確定しないため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること。

他の行使価額修正型の新株予約権については、行使の制限や制限の解除のみが可能なスキームがありますが、本スキームでは、これらに加えて、一定期間内に行使すべき新株予約権の数を指定することも可能であり、より機動的な資金調達を図りやすいと考えられること。また、行使価額が修正されない新株予約権については、株価上昇時にその上昇メリットを当社が享受できず、一方で株価下落時には行使が進まず資金調達が困難となること。

借入れによる資金調達は、調達金額が負債となるため、財務健全性の低下が見込まれること。

3. 当社の株券の売買について割当予定先との間で締結する予定の取決めの内容  
該当事項なし
4. 当社の株券の貸借に関する事項について割当予定先と当社の特別利害関係者等との間で締結される予定の取決めの内容  
該当事項なし
5. その他投資者の保護を図るため必要な事項  
該当事項なし
6. 本新株予約権の行使請求の方法
  - (1) 本新株予約権を行使する場合、別記「新株予約権の行使期間」欄記載の本新株予約権を行使することができる期間中に別記「新株予約権の行使請求の受付場所、取次場所及び払込取扱場所」欄記載の行使請求受付場所に対して、行使請求に必要な事項を通知するものとする。
  - (2) 本新株予約権を行使する場合、前号の行使請求の通知に加えて、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額を現金にて別記「新株予約権の行使請求の受付場所、取次場所及び払込取扱場所」欄に定める払込取扱場所の当社が指定する口座に振り込むものとする。
  - (3) 本新株予約権の行使請求の効力は、別記「新株予約権の行使請求の受付場所、取次場所及び払込取扱場所」欄記載の行使請求受付場所に対する行使請求に必要な全部の事項の通知が行われ、かつ当該本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の全額が前号に定める口座に入金された日に発生する。

## 7. 新株予約権証券の不発行

当社は、本新株予約権に関して、新株予約権証券を発行しない。

## 8. 社債、株式等の振替に関する法律の適用等

本新株予約権は、社債、株式等の振替に関する法律に定める振替新株予約権とし、その全部について同法の規定の適用を受ける。また、本新株予約権の取扱いについては、株式会社証券保管振替機構の定める株式等の振替に関する業務規程、同施行規則その他の規則に従う。

## (3) 【新株予約権証券の引受け】

該当事項なし

## 2【新規発行による手取金の使途】

### (1)【新規発行による手取金の額】

払込金額の総額(円)	発行諸費用の概算額(円)	差引手取概算額(円)
1,386,996,000	20,000,000	1,366,996,000

- (注) 1. 払込金額の総額は、本新株予約権の払込金額の総額(14,586,000円)に本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額(1,372,410,000円)を合算した金額であります。
2. 発行諸費用の概算額には、消費税及び地方消費税は含まれておりません。
3. 行使価額が修正又は調整された場合には、払込金額の総額及び発行諸費用の概算額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、払込金額の総額及び発行諸費用の概算額は減少します。
4. 発行諸費用の概算額は、弁護士費用、価額算定費用、信託銀行費用等の合計額であります。

### (2)【手取金の使途】

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を含めた差引手取概算額は、上記「(1)新規発行による手取金の額」に記載のとおり1,366,996,000円であります。但し、当社は発生する資金需要に応じて行使指定を行ってまいります。当社による行使指定についても、一定の条件及び制限が設けられているため、現時点においては本新株予約権の行使による財産の出資及びその時期を資金計画に織り込むことは困難であります。したがって、差引手取概算額の合計額1,366,996,000円については、現時点で次のとおり充当予定であります。具体的な使途及び金額については、行使による財産の出資がなされた時点の状況に応じて決定いたします。なお、実際の充当時期までは、安全で流動性の高い短期的な預金等で運用する方針であります。

なお、「2.本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容 (2)資金調達方法の選択理由」に記載のとおり、本新株予約権に係る資金調達額は、本新株予約権発行後の当社株価により増減することが考えられるため、具体的な資金の使途及び金額が変更される可能性があります。仮に予定していた資金調達額に満たない場合は、下記に示した具体的な資金使途のアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の日本における臨床第 相試験の実施を優先し、次に5-HT<sub>4</sub>部分作動薬(RQ-10)の臨床第 相試験の実施検討を行い、及び の中で残りの資金調達額の再配分を検討実施する予定です。

具体的な資金使途	金額(百万円)	支出予定時期
5-HT <sub>4</sub> 部分作動薬(RQ-10)及びアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の研究開発費	600	平成27年1月以降
5-HT <sub>2B</sub> 拮抗薬(RQ-00310941)及びモチリン受容体作動薬(RQ-00201894)の初期臨床試験	400	平成27年1月以降
リード化合物の創出及び開発候補化合物の非臨床試験	200	平成27年1月以降

本新株予約権による調達資金は、中期経営計画「プロジェクトReborn 90」の実行期間に着手を予定している当社開発化合物の研究開発費用に充当する予定としております。なお、中期経営計画「プロジェクトReborn 90」は、第8回新株予約権の発行時から内容に変更はありません。

5-HT<sub>4</sub>部分作動薬(RQ-10)及びアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の研究開発費 600百万円

5-HT<sub>4</sub>部分作動薬(RQ-10)は、英国で健康成人(88例組み入れ)による臨床第 相試験を終了し、高い安全性及び忍容性を確認、バイオマーカーとして、胃排出能への影響を検討、非常に低い用量(3µg/body)で明確に胃排出能を促進させることを確認しております。当該化合物は、胃運動機能の改善(胃不全麻痺、機能的ディスペプシア)と小腸及び大腸運動機能の改善(機能的便秘)に関連し、有望な可能性がある治療薬です。また、平成26年5月に米国Virginia Commonwealth University, Parkinson's and Movement Disorders Centerとの間で、パーキンソン病患者に併発する胃不全麻痺に対する本剤の有効性評価を目的とした、医師主導治験の実施に関する共同研究契約を締結しております。現在、臨床第II相試験実施の検討を開始しており、その臨床試験費用に充当する予定であります。

アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)は、胃酸の分泌に重要な役割を果たしており、既存のプロトンポンプ阻害薬(PPI)より優れた有効性を示す次世代の胃酸分泌阻害薬として期待され、速やか、持続的、空腹時服用での効果、夜間の効果でPPIとは全く異なる特徴/差別化点を臨床試験で証明しており、より有用な治療法となる可能性を持っております。米国・韓国での臨床第 相試験においては、安全性、忍容性、薬物動態とともに本剤の優れた胃酸分泌抑制効果を確認しています。また、胃食道逆流症患者を対象とした臨床第II相試験が韓国のCJ社で順調に実施されております。現在、日本での臨床開発を進めるべく調査と準備を行い、平成26年6月23日に本剤について、治験実施施設との治験実施契約を締結し、日本における臨床第 相試験を開始しており、その臨床試験費用に充当する予定であります。

5-HT<sub>2B</sub>拮抗薬(RQ-00310941)及びモチリン受容体作動薬(RQ-00201894)の初期臨床試験 400百万円

5-HT<sub>2B</sub>拮抗薬(RQ-00310941)は、消化管の運動や知覚に関与しています。高い活性と選択性を持つ本化合物は、機能的消化管障害の中でも注目度の高い過敏性腸症候群( IBS )の有効な治療薬として期待されます。前事業年度に、予定していた全ての薬物動態試験及び毒性試験並びに安全性薬理試験(いずれもGLP基準)を実施しており、本事業年度においては、薬効薬理試験を完了し、初期臨床試験実施の検討を開始しており、その臨床試験費用への充当を予定しております。

モチリン受容体作動薬(RQ-00201894)は、消化管機能の恒常性維持に重要な役割を担っています。高い活性と選択性を持つ本化合物は、胃不全麻痺、術後イレウス、機能的ディスペプシア等の未充足の医療ニーズに応える新薬となることが期待されます。前事業年度に着手した4週間反復経口投与毒性試験(GLP基準)は、現在、評価結果の精査段階にあり、その他、薬物動態試験及び薬効薬理試験についても、各種評価が進行中です。本事業年度においては、これらの前臨床試験を継続実施し、初期臨床試験実施の検討を開始しており、その臨床試験費用への充当を予定しております。

リード化合物の創出及び開発候補化合物の非臨床試験 200百万円

当社事業の根幹でもあります探索研究領域における投資費用に充当する予定であります。具体的には、新規ターゲットの評価系構築、化合物ライブラリーの拡充とスクリーニングの実施、リード化合物の適応症確認、薬理効果及び初期毒性の検証、リード化合物の最適化、さらには開発候補化合物の非臨床試験費用への充当を予定しております。

なお、上記の本新株予約権の手取金の使途は、平成25年7月4日に発行した第8回新株予約権の手取金の使途のうち、第8回新株予約権の行使による調達額によって充当できなかった部分に概ね相当するものです。もっとも、第8回新株予約権の資金使途の一部(研究機器設備投資資金及び運転資金)について、平成26年2月に当社提携先であるAratana Therapeutics社の当社保有株式を売却した際の代金を充当していることなどから、第8回新株予約権と本新株予約権の各調達予定額には差額が生じています。

また、上記のAratana Therapeutics社株式の売却により調達しました資金につきましては、第8回新株予約権を発行した際に具体的な資金使途として挙げていた研究機器設備投資資金と運転資金に加え、今回の資金使途にも挙げております。5-HT<sub>4</sub>部分作動薬(RQ-10)及びアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の研究開発費、並びに

5-HT<sub>2B</sub>拮抗薬(RQ-00310941)及びモチリン受容体作動薬(RQ-00201894)の初期臨床試験の準備に一部充当する予定であります。そのため、本新株予約権で調達する予定の資金の支出予定時期は平成27年1月以降を予定しております。

## 第2【売出要項】

該当事項なし

## 第3【第三者割当の場合の特記事項】

## 1【割当予定先の状況】

## a．割当予定先の概要

名称	メリルリンチ日本証券株式会社
本店の所在地	東京都中央区日本橋一丁目4番1号 日本橋一丁目ビルディング
代表者の役職及び氏名	代表取締役社長 ティモシー・ラティモア
資本金	119,440百万円
事業の内容	金融商品取引業
主たる出資者及びその出資比率	メリルリンチ・インターナショナル・インコーポレーテッド 100%

（注） 割当予定先の概要の欄は、平成26年7月1日現在のものです。

## b．提出者と割当予定先との間の関係

出資関係	当社が保有している割当予定先の株式の数	なし
	割当予定先が保有している当社の株式の数	なし
人事関係	該当事項なし	
資金関係	該当事項なし	
技術関係	該当事項なし	
取引関係	当社は、平成25年7月4日、メリルリンチ日本証券株式会社に対し、第8回新株予約権を第三者割当ての方法により割り当てております。	

（注） 提出者と割当予定先との関係の欄は、平成26年7月1日現在のものです。

## c．割当予定先の選定理由

当社としては様々な資金調達先を検討してまいりましたが、メリルリンチ日本証券より提案を受けた本スキームによる資金調達方法が、株価に対する一時的な影響を抑制しつつ、株価動向及び資金需要動向に応じた機動的な新株発行による資金調達を達成したいという当社のファイナンスニーズに最も合致していると判断しました。

当社は、メリルリンチ日本証券以外に他の国内外の金融機関からも資金調達の提案を受けましたが、別記「第1 募集要項 1．新規発行新株予約権証券（2）新株予約権の内容等（注）」欄第2項（本新株予約権に表示された権利の行使に関する事項について割当予定先との間で締結する予定の取決め内容）に記載した商品性や同様のファイナンス事例におけるメリルリンチ日本証券の過去の実績等を総合的に勘案して決定いたしました。

（注） 本新株予約権に係る割当ては、日本証券業協会会員であるメリルリンチ日本証券により買い受けられるものであり、日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」（自主規制規則）の適用を受けて募集が行われるものです。

## d．割り当てようとする株式の数

本新株予約権の目的である株式の総数は2,210,000株です（但し、別記「第1 募集要項 1．新規発行新株予約権証券（2）新株予約権の内容等」の「新株予約権の目的となる株式の数」の欄に記載のとおり、調整されることがあります）。

## e．株券等の保有方針

本新株予約権について、当社とメリルリンチ日本証券との間で、継続保有及び預託に関する取り決めはありません。

メリルリンチ日本証券は、本新株予約権の行使により取得する当社株式を長期間保有する意思を有しておらず、取得した当社株式については速やかに売却する予定である旨聞いております。

また、当社とメリルリンチ日本証券は、株式会社東京証券取引所の定める有価証券上場規程第434条第1項及び同施行規則第436条第1項から第5項までの定めに基づき、原則として、単一暦月中にMSCB等の買受人の行使により取得される株式数が、MSCB等の払込日時点における上場株式数の10%を超える場合には、当該10%を超える部分に係る転換又は行使を制限するよう措置を講じる予定です。

## f．払込みに要する資金等の状況

割当予定先からは、本新株予約権の払込金額（発行価額）の総額の払込みに要する資金は確保されている旨の報告を受けており、割当予定先の平成26年3月期の事業概要に含まれる貸借対照表から、当社としてかかる払込みに支障はないと判断しております。

## g．割当予定先の実態

割当予定先であるメリルリンチ日本証券は、その親会社であるバンク・オブ・アメリカ・コーポレーションの株式が、ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所及び東京証券取引所に上場されております。メリルリンチ日本証券は金融商品取引業者としての登録を行い、また日本証券業協会をはじめとする日本国内の協会等に加盟しております。

割当予定先は、反社会的勢力の排除に関する基本方針を定め、かかる基本方針をホームページにおいて公表しております。また、当社は、割当予定先がかかる基本方針に基づき、反社会的勢力との関係遮断に関する組織的な対応を推進するための統括部署を設置する等、反社会的勢力排除のための取組みを行っていることを、割当予定先からのヒアリング等により確認しております。

上述を踏まえ、当社は、割当予定先及び割当予定先の役員が反社会的勢力ではなく、また反社会的勢力との関係を有していないものと判断しております。

## 2【株券等の譲渡制限】

本新株予約権には譲渡制限は付されていません。但し、割当予定先との間で締結する予定のコミットメント条項付き第三者割当て契約において、本新株予約権の譲渡の際に当社取締役会の承認が必要である旨が定められています。

## 3【発行条件に関する事項】

## (1) 発行価格の算定根拠及び発行条件の合理性に関する考え方

当社は、本新株予約権の発行要項及び割当予定先であるメリルリンチ日本証券との間で締結する予定のコミットメント条項付き第三者割当て契約に定められた諸条件を考慮した本新株予約権の価格の評価を第三者算定機関である株式会社ブルーラス・コンサルティングに依頼しました。当該機関は、当社の株価、権利行使価額、当社株式の流動性、株価変動率等を勘案し、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを用いて、本新株予約権の価値評価を実施しております。価値評価にあたっては、当社は資金調達を行うこととして、行使制限通知は行わないものとし、また現時点では、資金需要の発生時期を合理的に見積もることが困難なため、行使指定は行わないものとしております。また、取得条項については発動のタイミングを定量的に決定することが困難であるため、評価に織り込んでおりません。割当予定先においては、株価が下限行使価額を下回った場合、残存する本新株予約権の取得を請求するものとし、株価が下限行使価額を上回っている場合においては、行使期間にわたって一様に分散的な権利行使がされることとしております。なお、1度に行う権利行使の数は、株式の流動性を考慮して、1回あたり10個（10,000株）との前提を置いています。当社は、本新株予約権の特徴や内容、本新株予約権の行使価額の水準、ブルーラス・コンサルティングによる本新株予約権の価値評価が本新株予約権1個あたり6,600円となったこと等を勘案の上、本新株予約権の払込金額を本新株予約権1個あたり6,600円としました。

また、本新株予約権の当初行使価額は、当該発行に係る取締役会決議日の直前取引日（平成26年7月1日）の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値に相当する金額としました。

当社監査役全員も、第三者算定機関によって算出された本新株予約権の評価額を上回る金額を本新株予約権の払込金額としていることから、本新株予約権の払込金額は、割当予定先に特に有利でないと判断しております。

## (2) 発行数量及び株式の希薄化の規模の合理性に関する考え方

今回の資金調達により、平成26年7月1日現在の総議決権数に対して最大16.30%の希薄化が生じます。しかしながら、当該資金調達により、別記「第1 募集要項 1. 新規発行新株予約権証券 (2) 新株予約権の内容等 (注)」欄第1項（本新株予約権の発行により資金調達をしようとする理由）の欄に記載のとおり、今後収益の向上を図り、企業価値の増大を目指していくこととしており、発行数量及び株式の希薄化の規模は合理的であると判断しました。

なお、新株予約権の目的である当社普通株式数の合計2,210,000株に対し、当社株式の過去6ヶ月間における1日当たり平均出来高は156,518株であり、一定の流動性を有していること、本新株予約権は当社の資金需要に応じて行使をコントロール可能であり、かつ 当社の判断により新株予約権を取得することも可能であることから、本新株予約権の発行は、市場に過度の影響を与える規模ではなく、希薄化の規模も合理的であると判断しました。

## 4【大規模な第三者割当に関する事項】

該当事項なし

## 5【第三者割当後の大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	総議決権数 に対する所有 議決権数の 割合	割当後の所 有株式数 (株)	割当後の総 議決権数に 対する所有 議決権数の 割合
CIP V JAPAN LIMITED PARTNERSHIP INCORPORATED (常任代理人 大和証券株式 会社)	C/O COLLER INVESTMENT MANAGEMENT LIMITED PO BOX 255, TRAFALGAR COURT, LES BANQUES ST PETER PORT, GUERNSEY GY1 3QL, CHANNEL ISLANDS (東京都千代田区丸の内一丁目 9番1号)	2,296,000	16.94	2,296,000	14.56
メリルリンチ日本証券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目4番 1号			2,210,000	14.02
ファイザー株式会社	東京都渋谷区代々木三丁目22番 7号	1,772,000	13.07	1,772,000	11.24
NIFSMBC-V2006S1投資事業有限 責任組合	東京都千代田区丸の内一丁目9 番1号	1,100,800	8.12	1,100,800	6.98
NIFSMBC-V2006S3投資事業有限 責任組合	東京都中央区日本橋茅場町一丁 目13番12号	801,900	5.92	801,900	5.09
コラボ産学官ファンド投資事業 有限責任組合	東京都江戸川区船堀三丁目5番 24号	160,000	1.18	160,000	1.01
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁 目2番10号	152,600	1.13	152,600	0.97
長久 厚	愛知県名古屋瑞穂区	152,000	1.12	152,000	0.96
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1 号	144,600	1.07	144,600	0.92
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9 番1号	132,400	0.98	132,400	0.84
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番 1号	86,100	0.64	86,100	0.55
計		6,798,400	50.15	9,008,400	57.14

(注) 1. 割当前の「所有株式数」及び「総議決権数に対する所有議決権数の割合」は、平成25年12月31日現在の株主名簿上の株式数によって算出しております。

2. SMBCベンチャーキャピタル株式会社から、平成26年6月3日付で大量保有報告書(変更報告書)が関東財務局長に提出され、平成25年5月30日現在、SMBCベンチャーキャピタル株式会社が無限責任組合員となっているNIFSMBC-V2006S3投資事業有限責任組合が上記のとおり当社株式を保有している旨の報告を受けたため、上記の大株主の状況には、平成25年12月31日時点の株主名簿に、当該大量保有報告書(変更報告書)に記載された同投資事業有限責任組合の保有株式数を反映しております。

3. 「割当後の総議決権数に対する所有議決権数の割合」は、「割当後の所有株式数」に係る議決権の数を、「総議決権数に対する所有議決権数の割合」の算出に用いた総議決権数に本新株予約権の目的である株式に係る議決権の数を加えた数で除して算出しております。

**6【大規模な第三者割当の必要性】**

該当事項なし

**7【株式併合等の予定の有無及び内容】**

該当事項なし

**8【その他参考になる事項】**

該当事項なし

**第4【その他の記載事項】**

該当事項なし



**第二部【公開買付けに関する情報】****第1【公開買付けの概要】**

該当事項なし

**第2【統合財務情報】**

該当事項なし

**第3【発行者（その関連者）と対象者との重要な契約】**

該当事項なし

## 第三部【参照情報】

### 第1【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類をご参照下さい。

#### 1【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第6期（自平成25年1月1日 至平成25年12月31日）平成26年3月28日関東財務局長に提出

#### 2【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第7期第1四半期（自平成26年1月1日 至平成26年3月31日）平成26年5月14日関東財務局長に提出

#### 3【臨時報告書】

1の有価証券報告書提出後、本届出書提出日（平成26年7月2日）までに、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を平成26年4月1日に関東財務局長に提出

### 第2【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書及び四半期報告書（以下、「有価証券報告書等」という。）に記載された「事業等のリスク」について、当該有価証券報告書等の提出日以後本届出書提出日（平成26年7月2日）までの間において生じた変更その他の事由はありません。

また、当該有価証券報告書等には将来に関する事項が記載されていますが、当該事項は本届出書提出日（平成26年7月2日）現在において変更の必要はないと判断しております。

### 第3【参照書類を縦覧に供している場所】

ラクオリア創薬株式会社

（愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号）

株式会社東京証券取引所

（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

#### 第四部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし

#### 第五部【特別情報】

##### 第1【保証会社及び連動子会社の最近の財務諸表又は財務書類】

該当事項なし